

NOW IS.

宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実に
立ち向かう。

2018.10.11

Vol.
30
October, 2018

ナウイズ
毎月11日発行

平間至・in 塩竈市

場所と時間をこえて 人がつながる場に。



GAMA ROCKは
これから
何をしていくべきか



くつろぎながらGAMA ROCKを楽しむひとたち。

白・青・オレンジ、3色のフラッグを横目に歩みを進めると、どこからか音楽が聞こえてきます。今日は「GAMA ROCK」の日。ウキウキとした表情の人々が会場の塩竈市みなと公園へと歩いていきます。

午前中の雨が止み、太陽の光が差し込む気持ちのいい午後。野外音楽イベント「GAMA ROCK」の主催者で写真家の平間至さんに話を伺いました。GAMA ROCKは、音楽・アート・食を通して、塩竈市の魅力を伝えること、街が元気になることを願い開催されています。こぢんまりとした公園の中央には特設ステージ。それを囲むようにフードやアートのブースが設置されています。集まった人々は、芝生にシートを敷いて演奏を聞いたり、子どもとシャボン玉を飛ばしたり。思い

思いに過ごせるのがGAMA ROCKの魅力です。

フードスペースでは、「がんばる浦戸の母ちゃん会」の「これ食べてってー」の元気な声に、平間さんは浦戸諸島で獲れた自慢の海苔や牡蠣の佃煮をパクリ。聴覚に障害があるパン職人が今年塩竈市にオープンさせた「花薫る喫茶処 蕾」のブースでは、マグロメンチカツバーガーを「おいしい」と笑顔で頬張る平間さんでした。

今年で7回目の開催となるGAMA ROCK。自分たち何ができるのか、今回は原点に戻って考え直したGAMA ROCKでした」と平間さんは話します。

「震災直後は、水や食料が足りないなど、支援がシンプルでし

塩竈の魅力が詰まった GAMA ROCKを 平間至さんとめぐる。

た。7年半たつて、仮設住宅に住む方、気持ちの面での復興が追いついていない方など、大変なことでも日常化していると感じています。一人一人支援の仕方が違いますし、複雑化しています。GAMA ROCKの必要性とは何だろうと考えました。自分たちの勢いだけじゃなくて『何をすべきか』を冷静に「ニューtralな気持ちで考えたいな」と。その考えを運営スタッフにも投げかけたという平間さん。

「そのこともあつてか、今年はスタップがこれまで以上に自主的に



「がんばる浦戸の母ちゃん会」のブースでは、かあちゃんたちが素材にこだわってつくった品々が並ぶ。



に関わってくれました。そういう意味では、今回は新しいGAMA ROCKだったと思っ



今年4月にオープンしたばかりの「花薫る喫茶処 蕾」。アーティストのみんなに差し入れを渡していました。

離れた気がついた 塩竈のいいところ

平間さんは、塩竈市出身。活動拠点は東京都ですが、1998年から「ふれあいエスプ塩竈」で写真展を開催したり、2008年から「塩竈フォトフェスティバル」の実行委員長を務めたり、生まれ故郷で積極的に文化活動を続けています。

「東京は楽しいだろうと思つて上京したものの、つまらなかつたんです」と笑う平間さん。塩竈市から離れて、地元の人に気が付いたと話します。「塩竈はまず、人がおもしろい。食べ物

もおいしいし、鹽竈神社など歴史もある。東京より塩竈の方が楽しかったんです」。

東日本大震災直後の3月22日、平間さんは支援物資を持って塩竈市に向かいました。その時に一緒に行ったのが、昨年NOW IS.で話を聞いたGAMA ROCK共同主催者のATSUSHI (Dragon Ast)さん。

「ATSUSHIは、継続的に支援を続けてくれるんじゃないかと、あのころから感じていました」。平間さんはATSUSHIさんとともに、4月17日に炊き出しとライブを行いました。「再会を喜んだ人たちの姿もたくさん目にしましたし、自殺を思いとどまった人がいたとも聞きました。音楽には、力がある」。そう感じたという平間さん。継続的に活動する必要があると感じ、2012年に「GAMA ROCK」の開催を決めました。「震災前から、市やまちの人たちから『音楽やアートのイベントを塩竈でやりたい』と聞いていたので、想いを叶えたいという気持ちもありました」。

これからも塩竈市の魅力を大勢の人たちに伝えたいという平間さん。「音楽はもちろん、写真



会場入り口には、地元小学生の作品も。

PROFILE

平間 至
ひらま いたる



1963年宮城県塩竈市生まれ。写真家。人物写真の枠を越えた躍動感のある作品で注目を集め、ミュージシャンを中心にさまざまな人を撮影している。2008年から「塩竈フォトフェスティバル」を企画するほか、さまざまな復興支援を行っている。



会場にはイベントブースの他に、参加者が自由に色を足せるアート(手前)やアーティストの作品(奥)が設置されている。

塩竈 DAY OUT

SHIOGAMA

塩竈で
休日を



塩竈市は宮城県のほぼ中央、松島湾に面した港町の風情と、平安時代からの歴史を持つ塩竈神社など、独特の歴史や文化を育んだ魅力あるまち。歴史と食とアートをたっぴりと楽しめます。

塩竈水産物仲卸市場

食べたい海産物を自由に買って、オリジナルの海鮮丼を作る「マイ海鮮丼」が人気です。

塩竈水産物仲卸市場

塩竈市魚市場

塩竈市みなと公園

震災の記録碑

「震災を風化させることなく、塩竈の未来を担う子どもたちへ贈るメッセージ」として石碑が市内4カ所に設置されています。

震災の記録碑

震災の記録碑

阿部甚か酒造店

震災の記録碑

花薫る喫茶処 蕾

震災の記録碑

塩竈市杉村惇美術館

震災の記録碑

塩竈市杉村惇美術館

ビルド・フルーガス

北米アートを中心とした企画展や作品販売を行うアートのベース。アーティストとの交流や情報交換が気軽にできます。

塩竈市杉村惇美術館

塩竈ゆかりの洋画家・杉村惇の油彩画や関連資料などを常設展示。コーヒー＆焼き菓子の店「塩竈本町談話室」でくつろぐのもおすすめです。

塩竈海道

塩竈を詠んだ百人一首の碑と道の両端にせせらぎがあるメインストリート。夜は石灯籠の灯りが美しく照らします。



GAMA ROCK FES

東日本大震災直後から、塩竈市を拠点に支援を続けてきた写真家の平間至さんとATSUSHI (Dragon Ash) さん。継続的な活動を目指しMUSIC/ART/FOODを通して、多くの人に塩竈市の魅力を伝える事、まちが元気になる事を願い2012年から、賛同したアーティストをはじめ、多くの人々の協力を得て毎年開催しています。



花薫る喫茶処 蕾

耳が聞こえないパン職人、羽生さんが2018年4月にカフェをオープン。2017年春に、浦戸諸島の復興推進と社会的弱者の雇用創出を目指し「浦戸の花物語プロジェクト」を立ち上げ、カフェを拠点に活動。浦戸諸島の花やハーブで天然酵母をつくり、パンやお菓子を提供しています。



塩竈市津波防災センター

2018年7月、塩竈港の旅客ターミナル「マリゲート塩竈」の隣に開設。震災の記憶と教訓を映像やパネルで常設展示しています。災害時には住民や観光客の一時避難場所、離島である浦戸諸島復旧の拠点となり、物資備蓄倉庫やシャワー室などを備えています。



合同会社ががんばる浦戸の母ちゃん会

浦戸諸島で獲れた「とっておき」を届けたいと、島の女性(かあちゃん)たちが2016年7月1日に合同会社を設立。素材にこだわった「海苔の佃煮」や「牡蠣の佃煮」、ゴマやオリーブを使った「味付き海苔」などを製造販売。電話注文や松島町の「M Pantry」、イベントなどで販売しています。



シロちゃん
クロちゃん

「今年も会えたね」。取材チームの顔がほころびます。平間さんの元で暮らすシロちゃんとクロちゃんはGAMA ROCKの人気者。2匹は「公益財団法人日本アニマルトラスト」から迎え入れたそう。この財団は、動物たちの保護や里親探しを行っていて、東日本大震災では被災した動物たちの保護や飼い主を探す活動も。GAMA ROCKにも参加し、活動の紹介などを行っています。「来年も会おうね」と声をかけたのは取材チームだけではないはず。



宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,566人 | 行方不明者数 1,223人 | 2018年8月31日現在宮城県危機対策課調べ

Support Power

PROFILE

塩竈市 建設部 復興推進課 再開発・都市整備係
しみず ゆうすけ
清水 勇介 さん
かみがはら
岐阜県各務原市より塩竈市に派遣

the 応援職員

NOW IS.
塩竈
Shiogama



応援職員の数は徐々に減少しています。平成30年度は塩竈市に14名の職員が来ています。



海のない各務原市からやってきた清水さん。塩竈のブランドマグロ「ひがしもの」のおいしさに感動したそう。



一見、復興工事はひと段落したように見える塩竈市。ですが、見えないところでは、まだまだまちの整備が続いています。岐阜県各務原市から塩竈市に派遣されている清水さんは、震災復興計画に基づいた区画整理事業に関わる仕事をしていきます。「実際に工事として表に見えるものだけでなく、しなければならぬ調整や手続きがものすごくたくさんあります。今は、毎日必死でついでいくだけです。清水さんは平成30年4月にやってきたばかり。」「各務原市にいた時は、電柱などを道路に占用する許可を出したり、境界の立会をおこなったり、道路の維持管理の仕事をしていました。今ややっている仕事も、同じ土木ではありませんが、携わったことがないジャ

ンルの仕事です。初めての経験ばかりで、新人のころに戻ったような気持ちです。ここにきたことが、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。各務原市では、震災直後から毎年塩竈市に職員を派遣しています。清水さんの後輩も塩竈市に来ていたそうです。「長期の休みを利用して、遊びに来たこともありましたが、ずんわりなじめたように感じています。市役所の方もみんな歓迎ムードです。すぐに頑張ろうという気持ちになりました」と話す清水さん。「震災後に初めて塩竈市に来たときは、被災地という印象をあまり受けませんでした。でも、被災箇所を巡り、当時の状況の説明を受けて驚きました。特に浦戸諸島にはまだ津波による爪痕が残っており、復興の途上なんだと、身の引き締まる思いでした。」清水さんは、地域に根差した住みよいまちをつくりたい、と市役所の職員になりました。塩竈市での経験を、各務原市でも活かしていきたいと決意を新たにします。「復興は自分があるうちに終わるわけではありませんが、今の仕事で復興の一助になれるよう、残りの任期もしっかり勤めあげたいと思います。」

塩竈市を、もっと住みよい街にするために。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



みなと塩竈ゆめ博2018

港町である塩竈市の魅力をおよそ1カ月間にわたり体験できるイベントが2018年9月28日から開催。期間中は約50もの多彩なイベントがあり、塩竈市の海・食・歴史をたっぴりと堪能できます。イベントの詳細はHPでご確認ください。
●日時: 9月28日(金)~10月31日(水)
●場所: 塩竈市内各所
☎022-367-5111 (みなと塩竈ゆめ博2018実行委員会・塩竈商工会議所内)
<http://www.minatoshioyama.com/>



親方特薦 ひがしものまぐろ祭り

塩竈市のブランドマグロ「三陸塩竈ひがしもの」のシーズンに合わせて、市内の寿司海道加盟12店舗で、親方が「ひがしもの」をオリジナルメニューで提供します。食事後、アンケートに答えると、抽選で寿司食事券をプレゼントします。
●日時: 9月15日(土)~11月30日(金)
●場所: 塩竈市内各所
電話 022-364-1165 (みやぎ寿司海道塩竈地域推進協議会)

今月のガイド

GAMA ROCK フード統括

佐野 麻里菜 さん

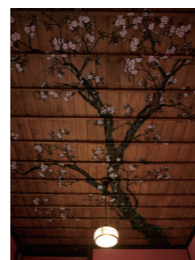
「自分がお客さんだったら何を食べていいか、どんなイベントだったら楽しめるか。まずそれを考えました。そう話すのは、今年GAMA ROCKでフード統括を担当した佐野さんです。第1回目の大学生の時から、ボランティアなどで毎年携わってきました。とはいえ、初めての統括。新規店舗への打診や各店舗のメニューバラバラ

「自分がお客さんだったら何を食べていいか、どんなイベントだったら楽しめるか。まずそれを考えました。そう話すのは、今年GAMA ROCKでフード統括を担当した佐野さんです。第1回目の大学生の時から、ボランティアなどで毎年携わってきました。とはいえ、初めての統括。新規店舗への打診や各店舗のメニューバラ

ンスなどやることは盛りだくさん。「GAMA ROCKに聞いたら、いい意味で人に頼れるようになりましたね。『人とのつながり』がとても大切なことです。」

「来年の開催は決まっていますが、新規のお客さんも家族のように『おかえり』ってなれるような雰囲気をつくりたいと思います。」

“よそ者”だからこそ 楽しめることができる 塩竈のよさがある



(上) 築140年の梁や柱を残した空間。古道具などの販売も。
(左) 塩竈神社の近く、昔ながらの面影を残すエリア。
(右) 2、3階は旅館として使われていたころの面影を残す。天井画の鹽竈樓。

この街のよさを 後世に伝えていきたい

むつくのくにのみやしおがましんじや
陸奥之國一宮・鹽竈神社の表参道からほど近い場所に、明治時代からの建造物で築140年の旅館遺構「日系びや旅館」を改修してできた「カフェはれま」はあります。1876年の明治天皇東北巡幸の際には、参議の大隈重信らが宿泊したこともある名旅館でした。旅館を廃業した後は、茶舗として営業していましたが、東日本大震災による津波は、この歴史的建造物にも襲いかかりました。

もともとの老朽化に加え、浸水の被害を受けたことで、解体が決まります。しかしながら、(特非)NPOみなとしほがまが保存運動を展開し、建物を購入。経済産業省や宮城県の助成を得て改修し、2階、3階部分を「塩釜まちかど博物館」として公開することが決まり、菊池千尋さんが1階部分を借りてカフェを開くことになったのです。「私は多賀城

市の出身で、後から塩竈に引っ越してきた“よそ者”なんです。よそ者の目線で塩竈を歩くと、ここってすごく面白い場所なんです。

でも、鹽竈神社、旧亀井邸、佐浦さんや阿部勘さん、いろんな魅力が“点”で存在しているんだけど、そこをつなぎ“線”にする為のもうひとつの“点”になれたらいいな！と、思っていて、なんか、ホッと落ち着いて休める場所が欲しいなあってずっと思ってたんです。

会社員生活を送りながらも、いつかは誰もが立ち寄れる場所を作りたい、そんな思いを抱えていた菊池さん。ちょうど、会社が早期退職者を募っていたこともあり、2010年の年末に退職を決意します。

そしてその数カ月後に起こったのが、あの震災でした。「震災後、ボランティアセンターに登録して、泥掻きのお手伝いをしていました。ある日、海岸通りの元海産物仲卸商のお宅にお邪魔したら、古いお宝がたくさんあって。そのお家にまつわ

るいろいろなお話を伺いながら、なんて面白いんだろう！って思ったんです。それからですね、塩竈の歴史や文化にグッと興味わいてきたのは。

そんな中で、「日系びや旅館」の保存運動にも参加。NPO法人が買い取ったその場所の1階を借り受け、カフェとしてオープンさせました。さらに、「気軽に手にできる塩竈土産があったらいいなと思って」と、鹽竈神社の鹽竈桜をモチーフにしたストラップや手ぬぐいなどのグッズも開発。古物商の免許も取得し、アンティークの食器などを販売しています。

「塩竈では再開発計画も進行中で、新しい定住人口を得ようとしています。私と同じように塩竈を面白がってくれる人が増えて、街のよさを伝えていってほしい。そのためには、もう少しここでがんばらないと(笑)」。小柄な体にたくさんの情熱を込めて、菊池さんは「カフェはれま」で雨のはれまを待つように、休息を求める人々を迎えます。

● 県内文化財の被災状況

区分	建造物	美術工芸品	民俗文化財	記念物	合計
件数	114	68	18	85	285

※記念物とは、「史跡」「名勝」「天然記念物」を指します。

区分	建造物	美術工芸品	合計	被害件数合計
件数	58	7	65	350件



PROFILE
カフェはれま
まくち ちろろ
菊池 千尋さん

多賀城市出身。30代で塩竈市内に住居を購入したのをきっかけに移住。50歳になったときに早期退職をし、塩竈の街づくりにかかわるようになり、2016年に「カフェはれま」をオープン。

01 震災復興ポスター2018が 完成しました!

全国の皆さまに、宮城県の「いま」をお伝えするため、被災地で復興に向けて取り組む方々の姿を、その決意や想いとともに表示したポスター(全4種)を作成しました。ポスターは全国の自治体、関係団体等に送付し、掲出していただく予定です。



送付を希望される方は [みやぎ復興情報ポータルサイト](#) で検索

● 県震災復興推進課 ☎.022-211-2408

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイト
みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
<http://www.fukkomiyaagi.jp>

02 創造的な復興へ! 10月24日「だて正夢」本格デビュー ～食卓の天下とりへいざ!～

「だて正夢」は、宮城県で開発されたお米の新品種。モチモチとした食感と甘みの強さが特長です。ネーミングには、仙台藩祖・伊達政宗公をほうふつとさせる「宮城らしさ」に加え、「復興の夢を正夢に」、さらにこのお米で「食卓の天下を取る」という願いが込められています。

本格デビューの今年、いよいよ10月24日から、県内・首都圏の百貨店、量販店、米穀店などで販売が開始されます。「これぞ天下をとる旨さ。」を、是非ご賞味下さい。詳しくは、「だて正夢」専用ホームページをご覧ください。

● 県農産環境課
☎.022-211-2841
<https://www.datemasayume-miyagi.jp/>



宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ



いわたかれん
復興フォト
岩田 華伶



これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは「仙台市」荒浜の自宅跡地にスケートパーク「CDP」を建設した真田さんを訪ねました。

震災遺構



宮城県内では、多くの伝承施設や復興モニュメント、震災遺構の整備が進められています。今回は、震災の津波で浸水した爪痕が残る仙台市の「震災遺構仙台市立荒浜小学校」。今年度から小中学生向けの防災教育副読本「3.11から未来へ」に写真などが載り、授業で取り上げられています。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

宮城の「今」を発信



震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

東日本大震災 特別企画「ともに」

これからも「ともに」たどっていきます

東日本大震災が発生した翌月から番組をスタートさせ、毎月1回の放送は、9月の放送で90回を数えました。番組では、みやぎの今を生きる人々、「復興」を支える人々やその活動を紹介し、被災した人たちがどんな気持ちで何を見つめているのか、どんな人たちがどんな想いで復興に向け取り組んでいるのか、その道のりを「ともに」たどっていきます。発生当初から定期的な放送を続けている震災番組として、これからも被災地からのメッセージを伝えていきます。



梅島 三環子 佐藤 拓雄

2018.10.11

Vol.

30

October, 2018

ナウイズ
毎月11日発行

いま
宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.

カフェはれま

菊池千尋

歴史的建造物を、 みんなが集まれる場所に

むつのくにいちのみや しおがましんじや
陸奥之国一之宮・鹽竈神社の門前町として、そして東北屈指の港町として古くから栄えてきた塩竈市。

ここに、地元の人をはじめ参拝客らがホッと一息つく素敵なカフェがあります。その名も「カフェ はれま」。明治初期に建てられた「旧えびや旅館」をリノベーションし、モダンで居心地のいいカフェに変身させたのは、自らを楽し気に

“よそ者”と呼ぶ菊池千尋さんです。

多賀城市の出身で、30代のときに塩竈市に移住。震災後に関わったボランティア活動がきっかけで、カフェのオーナーになったという菊池さん。和服に身を包み、小柄ながらとてもパワフルで明るく活動する菊池さんに、これまでのこと、そしてこれからのことを伺いました。